

地方独立行政法人くらて病院建設基本設計業務委託選定の
ための公募型プロポーザル審査経過及び講評

平成 30 年 7 月 2 1 日

地方独立行政法人くらて病院建設基本設計業務委託選定委員会

地方独立行政法人くらはて病院建設基本設計業務委託選定のための 公募型プロポーザル審査経過及び講評

平成 30 年 7 月 21 日

地方独立行政法人くらはて病院建設基本設計業務選定委員会

委員長	井原	徹
副委員長	田中	宏明
委員	山口	慎輔
	由衛	久子
	三戸	公則
	高野	裕士
	馬場	利恵子
	石井	英之

1. 審査経過

本基本設計業者の選定にあたっては、地方独立行政法人くらはて病院建設設計業務委託に係る公募型プロポーザルの実施についての公告、同プロポーザル実施要領、同提案書様式、同建替整備計画等を第 1 回地方独立行政法人くらはて病院建設基本設計業務委託選定委員会（以下「選定委員会」という。）において審議・承認し、これを公告した。（平成 30 年 4 月 27 日 公告）

第一次審査日 平成 30 年 5 月 24 日

第二次審査日 平成 30 年 7 月 21 日

第一次審査は、提出された参加表明書に基づき予め設定していた配点にて通過者を選定した。

第二次審査の技術提案書に対するプレゼンテーション及び質疑応答にて最適任者及び次席者を選定した。

2. 第一次審査

第一次審査は、事業者の実績・業務実施体制、総括責任者（管理技術者）、建築主担当者（設計監修）をプロポーザル実施要領に定めた、評価項目、評価基準及び配点にて書類審査を行った。9 者からの参加表明書の提出がなされ、得点の上位 5 者を第一次審査通過者として選定した。

3. 第二次審査

第二次審査は、6 つの特定のテーマに対して予め提出いただいた技術提案書を基にプレゼンテーションが実施された。

特定のテーマや項目等は、以下のとおりとした。

特定のテーマ	項目数	配点
① 災害時に拠点としての機能を発揮できる施設	5項目	30点
② 病院としての環境を堅持しながら、地域住民に開かれた施設	5項目	30点
③ 院内から四季を感じられる眺望や散策できる屋外エリアの提案	2項目	10点
④ 医療環境の変化に柔軟な対応が可能な施設及び現病院新館棟の活用方法の提案	4項目	20点
⑤ 限られた期間での建設、イニシャルやランニングコストの削減策の提案	4項目	20点
⑥ その他設計者としての提案	1項目	10点

業務担当者の取組意欲	2項目	20点
------------	-----	-----

第一次審査通過者として選定された5者に対し、プレゼンテーション 15分、質疑応答 25分、また本年7月初旬に発生した集中豪雨の他地域での影響を鑑みて、浸水・水害対策を必須質問事項とすることを予め設計事業者には周知し、当日に対応策などの説明が行われた。

4. 講評

地方独立行政法人くらて病院建設基本設計業務委託選定のための公募型プロポーザルは、基本設計のみの発注であり、以後の実施設設計及び建設工事を含めて平成33年3月末での竣工と非常に厳しい期間の条件が定められている。また、延床面積15,000㎡と222床の病床規模としては、決して十分ではない面積の要件の中で、期間、機能及び費用を総合的に実現させるためには、高度な知識・技術、創造力や現場意向を忠実に実現させる経験が要求されるため、一次審査から事業者の実績・業務実施体制といった事業所の評価より、実際にくらて病院の設計業務を担当する、総括責任者（管理技術者）、建築主担当者（設計監修）の評価に比重を置いたものであった。

選定委員会では、技術提案書の作成に貴重な時間と労力を費やされた参加者の方々に心からの敬意を払うとともに、これに十分応えるべく第二次審査における特定のテーマに対する技術提案書の評価を中心に、特に昨今の天候気候の変化にも安定的に継続的な運営が可能となる、「災害時に拠点としての機能を発揮できる施設」、病院としての機能と地域の方々に親しまれる施設になるべく「病院としての環境を堅持しながら、地域住民に開かれた施設」に評価ウエイトを置いた、慎重かつ厳正な審査を行った。

最適任者 株式会社 山下設計 九州支社

第二次審査の選定方法で最も高い点数の事業者であった。

また、審査員8名のうち5名が他の事業者より高い点数を付け、2名が2番目に高い点数を付けた。

- ・ 浸水・水害対策に対して、具体的な提案がなされ安全かつ安心を感じさせるものである。
- ・ 外来、病棟におけるそれぞれの実践レベルの感染対策がなされている。
- ・ 各診療時間帯に合わせた患者導線が考えられている。
- ・ 安全対策及び患者離院対策も施されている。
- ・ 屋外リハビリの提案や院内からの眺望も優れているものである。
- ・ 医療環境の変化に伴うレイアウトの変更や将来の増改築の十分に考慮されている。
- ・ 限られた工期でも十分な打ち合わせ時間を設けることのできる構造や工程を示している。
- ・ イニシャル・ランニングコストの縮減策も十分なものである。
- ・ 業務に対する取り組み方針や工程の実現性に対して担当者の意欲を感じられる。

以上の項目が他の事業者より評価が高く魅力的なものであった。

一方で、1Fと2Fの機能が、くらて病院の実情及び将来像とも合致しないと感じられるところ、また軟弱地盤に建設することから基礎工事に費用を割かれるが、総合的に判断して全会一致で最適任者として選定した。

次席者 株式会社 内藤建築事務所 九州事務所

第二次審査の選定方法で2番目に高い点数の事業者であった。

また、審査員8名のうち5名が2番目に高い点数を付けた。

- ・ 建物の構造が免震構造で安心を確保できるとともに費用も安価に抑えられている。
- ・ 災害時の患者受け入れや避難場所の確保の考え方も十分検討されている。
- ・ ヒトの導線、モノの導線を考え効率的に配置されている。
- ・ 来院者とバスの導線を分け、安全性に十分配慮されたものである。
- ・ 1Fの屋外のモールと屋内の吹き抜けで開放感のあるアトリウムに繋がりを持たせ病院利用の有無を問わず賑わいを感じられる。
- ・ 医療環境の変化に伴うレイアウトの変更や将来の増改築を十分に考慮されている。
- ・ イニシャル・ランニングコストの縮減策も十分なものである。

以上の項目が他の事業者より評価が高く魅力的なものであった。

一方で、免震構造かつ鉄骨構造の提案であるため、限られた期間での工期への不安、院内のプロジェクトやワーキンググループとの十分な打ち合わせ時間の確保への不安があったが、大半の項目で平均点以上の評価であったため次席者として選定した。